



突如登場した鬼に驚き、泣き叫ぶ子ども（秋吉の天野さん宅）

立春前夜、夜空に響く鬼の声

能登に春呼ぶアマメハギ

春の訪れを告げる国指定重要無形民俗文化財の「アマメハギ」が2月3日夜、秋吉・河ヶ谷・清真・宮犬の各地区で行われました。内浦地区のアマメハギは小中学生が鬼に扮して家々を巡ります。「アマメ」とはいろりなど、暖房にあたりすぎるとできるといわれる「火だこ」のこと。立春前夜に、子どもたちの元を訪れ、怠け癖がついていないか、脅しながら戒めます。



行事に彩りを添えようと、秋吉公民館は約千個の竹灯籠を作り、道路脇などに設置した。

2月17日、文化審議会が「能登内浦のアマメハギ」を含む、仮装した神が家々を訪れる同様の行事8件を「来訪神・仮面・仮装の神々」として、国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）無形文化遺産登録へ提案することを決定しました。ユネスコ無形文化遺産にはすでに「あえのこと」が登録されています。平成29年11月に関係国会議が開かれ、登録が審議される予定です。



平成27年に18年ぶりに行事を復活した宮犬地区では、小学生4人が鬼に仮装して、地区の20軒あまりの家々を巡りました。

午後6時、宮犬地区集会場に子どもたちと世話役の大人が集合し、葎や前垂れを身につけました。衣装や道具は、各家に保管されていたものを持ち寄り、足りない分は秋吉公民館の蓑づくり講座に参加するなどしてそろえました。「アマメ」の声とともに鬼たちが玄関先に登場すると、小さな子がいる家では、鬼の迫力に驚いて激しく泣き叫ぶ姿が見られました。多くの家では、子どもたちが扮する鬼の登場を待ちわびていて、ねぎらいの言葉がかげられました。

集会場に帰った子どもたちは、家の人からももらったお菓子などを公平に分けました。行事を通じて、6年生が中心となって子どもの輪ができます。子どもを支える地域や家々の協力で、さらに絆が深まっています。



能登の伝統行事 世界が認める宝に

無形文化遺産とは、国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）が無形文化遺産保護条約に基づき、世界的に価値の高い無形文化財を登録する制度です。能登では平成21年に「奥能登のあえのこと」が登録されています。アマメハギは、無形文化遺産リストに既に登録されている「甕島のトシドン」（鹿児島県）と似ている点があるため、この行事の要素を変更し、8件を一括して提案されることと決定されたものです。「来訪神・仮面・仮装の神々」を構成するこの8件の行事には、正月など年の節目に来訪神に扮した人が家々を訪れ、子どもや怠け者を戒めたり、災厄をはらったりするという共通点があります。今後、3月に政府による決定、平成29年に正式にリストに登録される見込みです。

「来訪神：仮面・仮装の神々」を構成する全国各地の行事

- ・甕島のトシドン（鹿児島県薩摩川内市）
- ・男鹿のナマハゲ（秋田県男鹿市）
- ・能登のアマメハギ（能登町、輪島市）
- ・宮古島のパーントゥ（沖縄県宮古島市）
- ・遊佐の小正月行事—アマハゲ（山形県遊佐町）
- ・米川の水かぶり（宮城県登米市）
- ・見島のカセドリ（佐賀県佐賀市）
- ・吉浜のスネカ（岩手県大船渡市）

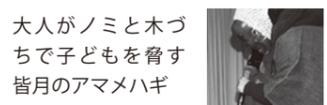
要旨には「地域の人々の絆としての役割を果たしている無形文化遺産の保護・伝承の事例として、国際社会における無形文化遺産の保護の取組に大きく貢献するもの」と行事の意義が記載されています。登録によりアマメハギが世界中から注目され、地域振興への効果が期待されますが、同時に、保護や後継者育成など、能登に住む私たちにも行事の伝承に向けた努力が求められています。

多様な習俗 能登のアマメハギ

「能登のアマメハギ」として国の無形民俗文化財に指定されているのは、能登町と輪島市に伝わる「アマメハギ」と、輪島市で行われている「面様年頭」です。アマメハギは、正月や立春前の節目に家々を訪れ、子どもの怠け癖を戒める点は同じですが、家々を巡る人や衣装、道具など、習俗に違い



無言で神棚の前に座り、主人から祝いの言葉を受ける「面様年頭」



大人がノミと木づちで子どもを脅す皆月のアマメハギ



子どもが鬼に扮する能登町のアマメハギ

が見られます。能登町のアマメハギは、子どもが「鬼」に仮装しますが、輪島市門前町皆月のアマメハギでは、大人の青年会員が「天狗」「猿」「ガチャ」と呼ばれる3種の面を着けて家々を巡ります。天狗は神棚でかしわ手をうち、お払いを行います。輪島市輪島崎町と河井町で行われる「面様年頭」は、小学生が男面・女面で神の姿に扮して、訪れた家の当主から年賀のあいさつを受けます。

「能登のアマメハギ」に指定されている行事	アマメハギ	面様年頭
	1月2日…輪島市門前町皆月（かつては6日に実施）、五十洲	1月14日…輪島市輪島崎町
	2月3日…秋吉・清真・河ヶ谷	1月20日…輪島市河井町

伝統継承に向けて 各地で続く努力



養作りを指導する堂下さん
立体的で複雑な形状の「深靴」

輪島市大野町では、行事の担い手となる子供が少なくなったことから、昭和39年を最後にアマメハギが途絶えていました。伝統文化を引き継ぐと、地区の「大野町子ども育成会」が中心となり、平成25年に復活させました。生徒がお年寄りから体験談を聞き取るなど努力し、およそ半世紀ぶりに行事が行われました。

今年1月11日に地元在住の輪島中学校生徒5人が、麻袋や蓑をかぶり、鬼や神主に扮して家々を巡りました。子どものいる家では、「親の言うことを聞くか」「片づけをするか」と脅し、いい子になるよう約束させました。神主役の生徒が神棚に向かって祝詞をあげ、家族のお払いをして五穀豊穡を祈りました。

秋吉公民館は、アマメハギの衣装づくりを実施しています。平成24年11月、上の堂下久子さんの手ほどきで蓑づくり講座を実施しました。翌年は前垂れを、平成26年は深靴を造りました。深靴は形状が立体的で難易度が高く、公民館に保管されていたものを参考に作ることは困難でした。作業経験者が近隣にいなかったことから、珠洲市の藪下益栄さんを講師に招きました。週に一度行われた講座には、輪島市の2つの公民館からも参加があるなど、多くの人が関心を寄せました。

秋吉公民館の取り組みは、行事の衣装をそろえるだけでなく、地区の伝統技術継承にも貢献しています。



鬼と神主が家々を巡る、輪島市大野町のアマメハギ

「登録は夢のよう」 地域活性化に決意



能登町秋吉地区アマメハギ保存会長 天野 登さん（80）＝秋吉＝

「無形文化遺産への登録提案は夢のようです」と話すのは秋吉地区アマメハギ保存会の天野登会長です。新聞社やテレビ局などから問い合わせが相次ぎ、忙しい日々を過ごしています。

「能登に伝わる素朴さが、最大の魅力」と、伝統に則して行事を実施するように努力しています。天野さんは趣味の写真を生かし、カメラ雑誌への情報提供や、駅での写真パネル展示など地道な活動を続け、行事

を周知してきました。昭和54年に国の指定を受け、多くのカメラマンが訪れるようになってからは、自宅を開放し、アマメハギの魅力発信を続けています。

自身が子どものころのように、楽しいアマメハギを体験してもらおうと、子どもたちに負担がかからないよう配慮しています。鬼役の子どもたちに行事について教え、行事が終わってからは作文で振り返らせるなど、伝承に力を入れています。さらに天野さんは、自宅をプチミュージアム「奥能登トリビア蔵・あまめはぎ館」として、蓑や包丁などのアマメハギの道具展示や映像の上映を行い、1年を通して行事について知ることができるようになっています。

町観光ボランティア協会の会長でもある天野さん。「アマメハギは世界の宝になります。世界農業遺産認定とあえることを合わせて、能登町に3つの宝があります。案内の方法なども考え直したいと思います」と力を込めます。「能登の魅力を広げ発信して、地域がさらに活性化するように、一步一步前進していきます」と、決意を新たにしています。